

教えることによって命を救う

ラッセル・T・オスガソープ
中央日曜学校会長

わたしたちは大切な教義を教え、神が備えておられる業を行うよう勧め、そして祝福が確かにやって来ることを約束するのです。

伝道部会長を務めていたときのことです。ある日、電話で長男と話していました。彼は医師として働いている勤務先の病院に向かっている途中でした。そして、病院に着くと、こう言いました。「話ができてうれしかったよ、お父さん。もう車を降りて、人の命を救いに行かなければならないんだ。」

息子は命にかかわる病気を持つ子供たちの診療を担当しています。病気を的確に診断し、適切な治療を施すことができれば、子供の命を救うことができます。わたしは宣教師たちに、宣教師の仕事も人の命を救うこと、すなわち、教える人々の霊の命を救うことであると話しました。

ジョセフ・F・スミス大管長はこう語りました。「真理を受け入れた人は真理によって救われるであろう。単にだれかに教えてもらったから救われるのではない。真理を受け入れ、真理に従って行動して初めて救われるのである。」

(Conference Report, 1902年4月, 86。『教師、その大いなる召し』49; 1 テモテ4: 16も参照)

息子は医学の知識を分かち合うことによって命を救い、教会の宣教師と教師は福音の知識を分かち合うことによって命を救います。宣教師と教師は御霊に頼るとき、適切な原則を教え、学んでいる人にその原則に従って生活するよう勧め、約束された祝福が確かにもたらされることを証します。デビッド・A・ベドナー長老は最近開かれた訓練集会で、効果的に教える3つの簡単な要素を挙げました。それは(1) 大切な教義(2) 行動するよう勧めること(3) 約束された祝福です。

『わたしの福音を宣べ伝えなさい』は、宣教師が大切な教義を教え、教える人々の行動を促し、その人々が約束された祝福を受けられるよう助けてくれます。親と教師が同様のことを行う助けとなるのが『教師、その大いなる召し』です。これは福音を教えるための手引きであり、『わたしの福音を宣べ伝えなさい』は伝道活動のための手引きです。わたしたちはこれらの手引きを使って教える準備をし、そして教えるときに御霊に頼ります。

トーマス・S・モンソン大管長は青年時代に日曜学校の教師であったルーシー・ガーシュについて話しています。ある日曜日、無私の奉仕についてのレッスンの途中で、ガーシュ姉妹はクラスパーティーのためにためたお金を、母親を亡くしたクラスメートの家族に上げることを提案しました。モンソン大管長の話によれば、ガーシュ姉妹は生徒の行動を促すために、「テキストを閉じ、子供たちの目と耳と心を、神の栄光に向けさせました。」(「偉大な教師の模範」〔『世界指導者訓練集會』2007年2月10日〕, 『リアホナ』2007年6月号, 76) ガーシュ

姉妹はテキストを使ってレッスンを準備しましたが、靈感を受けたとき、テキストを閉じて、教えている福音の原則を実践するよう生徒に促したのです。

モンソン大管長はこう教えています。「福音を教えることの目標は、……生徒の頭に『情報を流し込む』ことではありません。……福音の原則に従って生活することについて考え、感じ、行動に移せるよう一人一人を鼓舞することなのです。」（Conference Report, 1970年10月, 107）

モロナイは預言者ジョセフを訪れたとき、回復に関する大切な教義を教えただけでなく、「神が〔ジョセフ〕のなすべき業を備えておられること」についても告げ、彼の名が世界中で覚えられることを約束しました（ジョセフ・スミス—歴史1：33参照）。親と福音の教師は皆、神から遣わされた使者です。皆がガーシュ姉妹やモロナイのように将来の預言者を教えるわけではありませんが、教会の将来の指導者を教えていることには間違いありません。ですから、わたしたちは大切な教義を教え、神が備えておられる業を行うよう勧め、そして祝福が確かにやって来ることを約束するのです。

気ままに過ごしていた少年時代のことを覚えています。わたしは初等協会の集会に出席するため教会に向かって歩いていました。教会に着くと、驚いたことにその日は特別プログラムで、親たちが全員来ていました。そのときわたしは、このプログラムに自分の出番があって、せりふを暗記するのを忘れていたことに気がつきました。そして、わたしの順番が来ました。立ち上がりましたが、一言も話せませんでした。何も覚えていませんでした。しばらくそこに立っていて、それから再びいすに座り、床をじっと見詰めていました。

その経験の後、教会のどんな集会でも二度と話さないと固く決意しました。しばらくの間その決意を守り通していました。そして、ある日曜日、初等協会指導者のリディア・スティルマン姉妹がわたしの横にひざまずいて、次の週に短い話をしてほしいと言いました。「ぼくはお話をしません」と答えました。すると「分かっているわ。でもわたしが手伝ってあげるから、絶対できるわ」と彼女は言いました。わたしは抵抗を続けましたが、スティルマン姉妹がわたしに寄せた信頼があまりにも大きかったため、断り切れなくなりました。こうして、話をする事になりました。

そのすばらしい女性は神の使者であって、わたしのなすべき業を備えていました。召しが来たら、たとえどれほどふさわしくないと感じていても召しを受けるべきだということを彼女は教えてくれました。モロナイがジョセフに対してしたように、彼女はわたしが話をすべき時が来たときに、準備ができていることを確認してくれました。この靈感あふれる教師は、わたしの命を救う手助けをしてくれました。

わたしが10代のときに日曜学校のクラスで教えてくれたのは、伝道から帰還して間もないピーターソン兄弟でした。彼は毎週黒板の左下の隅から右上の隅まで大きな矢を描き、そして上に「目標を高く定める」と書きました。

どのような教義を教えるときも、ピーターソン兄弟はわたしたちができると思っているよりも少し上を目指すようチャレンジしました。矢と目標を高く定めるといふ標語はレッスン中ずっと励ましとなりました。わたしはピーターソン兄弟のおかげで、伝道の業を立派に果たし、学校でより良い成績を収め、職業についてもより高く目標を設定したいと思うようになりました。

ピーターソン兄弟はわたしたちのなすべき業を備えていました。彼の目標は「福音の原則に従って生活することについて考え、感じ、行動に移せるよう」わたしたちを助けることでした。彼が教えてくれたことによってわたしの命は救われました。

わたしは19歳で宣教師に召されてタヒチへ行きました。フランス語とタヒチ語の2か国語を学ばなければなりませんでしたが。初めのころはどちらの言語も進歩が見られず、ひどく落胆しました。フランス語で話そうとする度に、人々はタヒチ語で答えてきました。タヒチ語で話そうとすると、フランス語で答えてきました。あきらめる寸前でした。

そしてある日、伝道本部の洗濯室を通りかかると、わたしを呼ぶ声が聞こえました。振り向くと、戸口に立っていた白髪混じりのタヒチの女性が、わたしに戻って来るように手招きしていました。彼女の名はトゥプテアタ・モオといいました。彼女はタヒチ語しか話せず、わたしは英語しか話せませんでした。何を言っているのかほとんど分からなかったのですが、わたしがタヒチ語を学ぶのを助けることができるので、毎日洗濯室に立ち寄るようにとっていることが分かりました。

こうして毎日、彼女がアイロンがけをしている間、わたしは彼女とタヒチ語の練習をしました。最初はそのようなことが役に立つのかと思っていましたが、次第に彼女が何を言っているのか分かるようになりました。彼女は会う度に、わたしが絶対二つの言語を学べることを確信していると言ってくれました。

モオ姉妹はわたしがタヒチ語を学べるよう助けてくれました。けれどもわたしが彼女から学んだのはそれ以上のことでした。彼女はわたしに福音の第一の原則、すなわち主イエス・キリストを信じる信仰を教えてくれていたのです。主に頼れば、主はわたしが不可能だと思っていたことができるように助けてくださることを教えてくれました。モオ姉妹はわたしの伝道を救ってくれただけでなく、命を救う手助けもしてくれました。

スティルマン姉妹、ピーターソン兄弟、モオ姉妹は、「説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により、優しさと純粋な知識により〔り、教えました〕。これらは、心を大いに広げるもので〔す。〕」（教義と聖約121：41-42）また、彼らは徳で自分たちの思いを飾ることにより教えました。そうすることで、聖霊は常に彼らの伴侶となられたのです（教義と聖約121：45-46参照）。

これらの偉大な教師は自分の教え方について次のように自問するよう促してくれました。

1. わたしは教師として、自分が神から遣わされた使者であると考えているだろうか。
2. 命を救う手助けとなるような方法を準備してから、教えているだろうか。
3. 回復についての大切な教義に焦点を絞っているだろうか。
4. わたしが教えている人々はわたしが彼らと天の御父そして救い主を愛していることを感じるができるだろうか。
5. 靈感を受けたときに、わたしはテキストを閉じ、人々の目と耳と心を、神の栄光に向けさせているだろうか。
6. 神が彼らのために備えておられる業を行うよう勧めているだろうか。
7. 求められることを断れなくなるほど大きな信頼を、わたしは彼らに表しているだろうか。
8. わたしが教えている福音に従って生活するときに、約束された祝福がもたらされることに気づくよう人々を助けているだろうか。

神の王国において、学び、教えることは、自由に任されている活動ではありません。まさしく、学び、教えることによって、地上に福音が回復されたのであり、わたしたちは永遠の命を得るのです。また個人の証を得る道が示されます。だれも「無知で救われる」ことはありません（教義と聖約 131 : 6）。

わたしは神が生きておられることを知っています。イエスがキリストであられることを証します。預言者ジョセフは真理を学び、そしてそれを教えることによってこの神権時代を開いたことを証します。ジョセフは次々と質問をして、神から答えを受け、そして自分が学んだことを神の子供たちに教えました。モンソン大管長が現在地上における神の代弁者であり、引き続きジョセフのように学び、わたしたちに教えてくれることを知っています。なぜなら、教えることによって命が救われるからです。イエス・キリストの御名により、アーメン。